問一　傍線部㈠の本文中における読みとして適当なものを次の中から一つ選べ。

1，つひに　2，さまに　3，かつ　4，ゆゑに　5，しばらく

且　かつ　または　しばらく　　かつ（＝そのうえ）が適切

【答え　3】

問二　傍線部㈡について、以下の訳となるように、返り点をふれ。

命は、何よりも大切にしても、いつまでも保てるものではない。体は、かけがえのないものとして大切にしても、ずっと健康でいられるものではない。

訓点＝返り点＋送り仮名

生非貴之所能存。

命は、何よりも大切にしても、いつまでも保てるものではない。

主語＝～は、動詞＝～する、非＝ない、能＝～できる…これらがポイント

語順は英語と同じ。「主語＋動詞＋目的語」の順。

身非愛之所能厚。

体は、かけがえのないものとして大切にしても、ずっと健康でいられるものではない。

【答え　生非貴之所能存。身非愛之所能厚。】

問三　傍線部㈢のように楊子が述べているのはなぜか。

久生（シククルコト）奚為（なんゾサン）。

訳…長く生きることが何になるというのか。

次の文章を訳してみよう。

百年猶厭（スラホいとフ）其多（ニ　キヲ　一）、況久生之苦乎（シククルコトノシキヲト）。

「抑揚」の句法

「○猶（スラ）△、況（シヤ）□乎（や）」　○でさえ△なのだから、□はなおさらいうまでもない。

書き下し文…百年すら猶ほ其の多きを厭ふ、況んや久しく生くることの苦しきをや。

訳…百年という寿命ですら長すぎて煩わしいと思うのに、ずっと長生きすることの苦しさはなおさらいうまでもない。

⇒

これをうまく質問の回答に合うようにアレンジして回答しよう

【 答え　人間の、百年という寿命ですら長すぎて煩わしいと思うのに、いつまでも生き続けても、その苦しさが増すばかりだ、と考えているから 】

採点基準…抑揚の訳ができていて二点。

「百年という人間の寿命が長すぎて煩わしい」…近い表現ができて三点。

「いつまでも生き続けることは苦しさが増すばかり」…近い表現ができて三点。

まとまってきちんとした、意味の通る解答になっていること、長すぎない文章であること、ができていて二点。

問四　傍線部㊃が示す内容を、本文中から二字で書き抜いて答えよ。

則（チ）践（ふミ）二鋒（ほう）刃（じんヲ）、入（レバ）二湯火一、得（ント）レ所（ヲ）レ志（ス）矣。

訳：すると、鋭い刃を踏み、熱湯や猛火の中に飛び込めば、「目的」を果たすことができるでしょう

その目的とは？？

速（ヤカニ）亡（ブルハ）愈（まさル）二於久（シク）生（クルニ）一

早く死ぬことは、長く生きることに勝るということだ

この「早く死ぬこと」が該当！

【 答え　速亡 】

問五　（あ）（い）（う）には「生」か「死」の漢字が入る。当てはまる漢字をそれぞれ答えよ。

不然。既（マレナハ）二（あ）、則（チ）廃（シテ）而任（セ）レ之（レニ）、究（メテ）二其（ノ）所（ヲ）レ欲（スル）、

以（テ）俟（マタン）二於（い）（ナリ）。

（あ）（い）について考えよう。

すぐ下に「則」がある。「レバ則」（～したら…）を参考にして意味を考えよう。

「（あ）したら、作事を加えずにそのままにして成り行きに任せ、したいことをやりつくして（い）を待つのがよい」

「生」か「死」のどちらがよいか。明らかだね。

「生まれたら、作為を加えずなりゆきに任せ、（中略）死を待つのがよい」が意味が通る。

（あ）が「生」、（い）が「死」が妥当だろう。

（う）について考えよう。

セント
将（う）、則廃而任レ之、究二其所レ之、以
レバ　テ　シテ　レニ　メテ　ノ　ヲ　ユク　テ
放二於尽一。
いたラン　ニ　クルニ
（う）しようとしたら、作為を加えず成り行きに任せ、その行きつく最後まで行き、（命が）尽きるにいたればよいのだ。
ここはちょっと思考が必要。
仮に（う）が「生」だとしたら、つじつまが合わない。「生まれる」ときには意志がないから、「なりゆきにまかせる」というのは意味が通らない「死にそうになったとき、なるに任せる」であれば、意味が通るよって（う）は「死」が該当。

【答え（あ）生（い）死（う）死】

問六　本文の楊子の主張に最も合うものを以下の選択肢から一つ選べ。
選択肢を一つずつ見ていこう

1，人は、苦しむくらいならむしろ早死にする方がよく、延命などせず、長生きに執着すべきでない。
長生きしても苦しむだけだよ、とは言っているが…

2，人は、苦しみに耐え自らを律しながら、生を素直に受け入れ穏やかな死を迎えるのがよい。
こんなことは言ってないよね…

3，人は、身を大切にいとおしみ不老長寿を求めるべきで、死を望むなどもってのほかである。
これは逆！

4，人は、苦しみに打ち勝ち日々の生活を充実させるべきで、幸福の到着の早い遅いは問題ではない。
正解っぽいが…充実させるべきとは一言も言っていない。

5，人は、自らに忠実に行動し生や死をありのままに受け入れ、早死にや長生きなどは問題にならない。
何ぞ遽遅二速於其間一乎。
この訳がポイントとなる。「其間」とは何と何の間か。
「どうして生と死の間に遅い早いがあるだろうか、いやそんなものはない」
←
「死の遅い早いが問題となることがあろうか、いやない」と解釈できる。よって5が正解。

【答え　5】